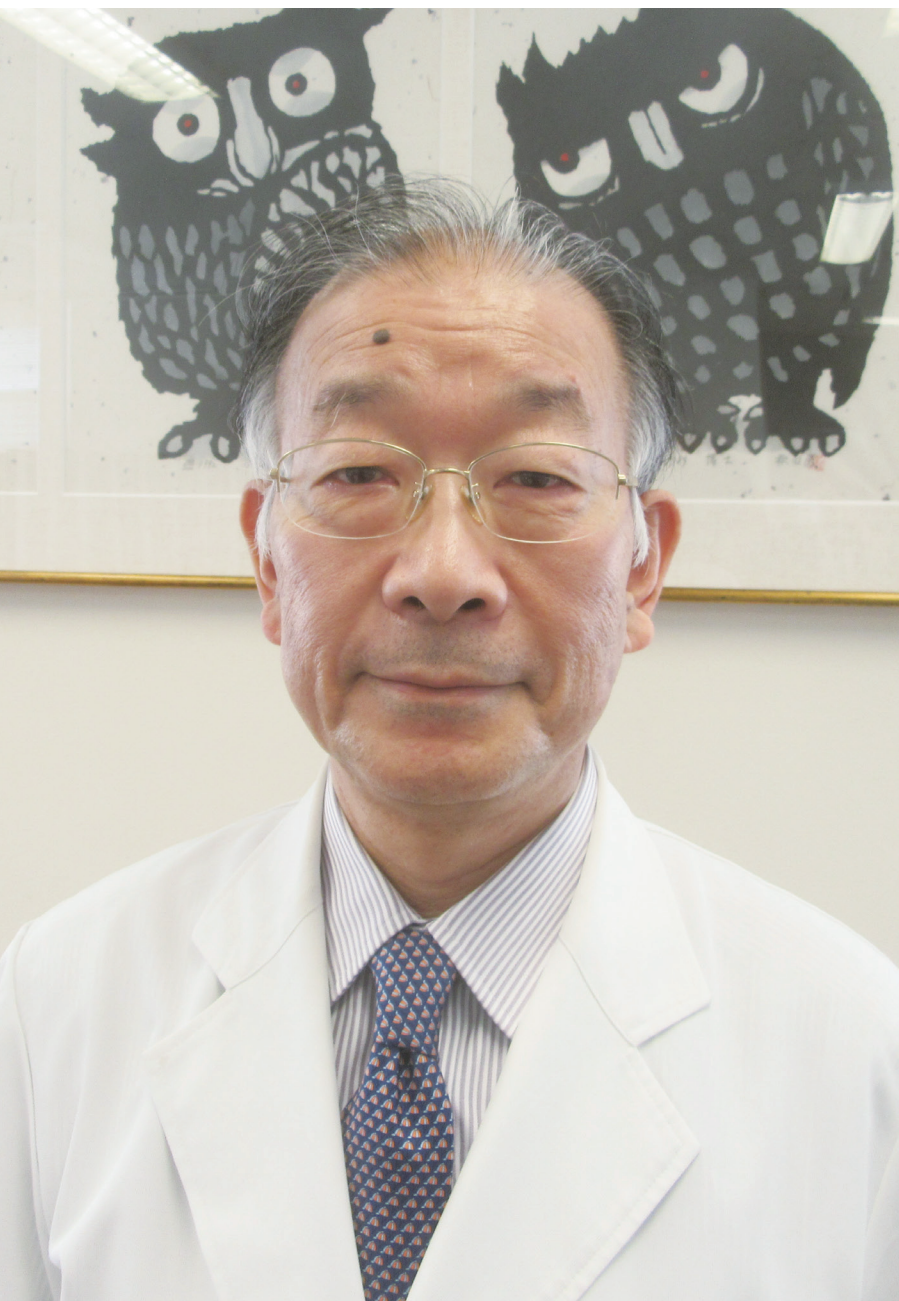


藤沼医院

藤沼秀光 院長に訊く

構成／須山久里
医療ジャーナリスト

がんは元々あなた自身の細胞です。
あなたの生き方を変えてがんを
もとの姿に戻してあげてください
——より進化したメタトロンをオーダーメイドして治療に取り入れています



藤沼秀光（ふじぬま・ひでみつ）

医学博士。獨協医科大学心臓・血管内科非常勤講師。栃木県警察医。専門は心臓病、動脈硬化、代替医療。1953年、栃木県生まれ。1979年、獨協医科大学医学部卒業。同大学第1内科助手、講師を経て、藤沼医院を開院して院長となる。日本臨床生理学会評議員、日本循環器学会地方会評議員、国際個別化医療学会幹事。著書に『注射・薬が効かないリウマチ・関節炎の激痛が消えた!』『ヘルニア手術以外の選択肢』『腸を直すとアトピーが治る!なぜ?』『脱ステロイドの新アトピー治療』。論文に『高濃度ビタミンC点滴療法の腎機能に対する効果』、DVD著作として『原因がわかるとアトピーは治る』など多数。

関東地方北部に位置する栃木県は農業、工業、商業、観光業のどの産業も盛んで、とくに観光では県内に日光や那須、鬼怒川など国内でも有数の保養地を有しています。県庁所在地の宇都宮市は北関東最大の都市であり、最近では餃子が有名で遠方からも餃子目当ての人が押し寄せています。交通は、東北新幹線や上野東京ライン、湘南新宿ラインで東京方面と結ばれていて、利便性が高まっています。

今回ご紹介する藤沼医院は宇都宮駅まで12分の石橋駅が最寄り駅で、駅から車で約4分のところにあります。こちらでは西洋医学を基本としながらも対症療法ではなく、肉体に視点を置く治療がなされており、加えて心や霊性も考えた治療が行われています。

そこで、今回は藤沼秀光院長に、実践されているがん治療や今後の展開などについてお話ししました。

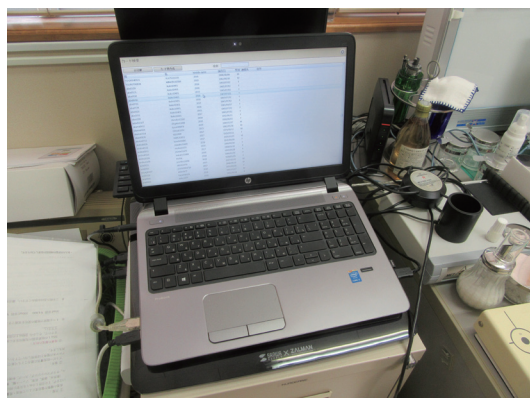
私も医師になり難病で困っている人を救いたいと思いました

——まず、先生のご経歴からお話してください。

藤沼 昭和54年に獨協医科大学を卒業しました。そして、同大学の第1



藤沼医院外観



潜在意識がわかる「メタトロン」

内科に入局し、その後は大学病院やその系列の関連病院などに勤務していました。診療だけではなく大学では講師として教育、研究も行っていました。

わけあって藤沼医院を開院したのは昭和57年ですが、教授の許可をいただき大学病院勤務も継続しながらの開院でしたので、当初は土曜日の夕方だけの診療でした。

平成2年に医学博士号を取得しましたが、来院患者さんが増えて土曜日だけでは診きれなくなったので平成7年に大学を退職し、現在は藤沼医院に専念して診療を行っています。

——医師になられたきっかけをお聞かせください。
藤沼 私は小児期からずっと病気や

けがで悩まされていたのですが、どの先生も治せなかった蓄膿症が漢方医の先生によって治りました。また、膝の半月板の損傷も東京の大学病院では治すことができなかったのですが、名声を聞いて受診した医師の手術で治ることができました。これらの経験は、ほかにも数え切れませんがこれらの経験は医療のすばらしさを教えてくれましたので、私も医師になり難病で困っている人を救いたいと思ったのです。

量子理論に基づいた「メタトロン」

——初志を貫徹され、日々がんを含む難病に取り組まれていることに敬意を表します。

では、がん治療に関してお聞きしますが、先生はどのようながん治療を行われていますか。

藤沼 以前に貴誌に取材いただいた際にもお話したと思いますが、当院は量子理論に基づいた「メタトロン」という量子波動機器の最上位機種を活用した治療を行っています。

メタトロンは、患者さんの潜在意識もわかります。たとえば、健康的で明るい人なのにメタトロンではいつも「悲しみ」という結果が出たり、性格が良さそうな人なのに「妬み」という結果が出たりする場合があります。このような場合、患者さんの話をよく聞き、原因をつきとめます。意外なことにその方の周囲の想念の影響を受けることもあるのです。さらに、抗がん剤やサプリメントの相性なども判定可能な優れものです。

しかし、診断面などをさらに充実させるなど、もっと使い勝手を良くした機器で診療したいと思いました。そこで、この分野に詳しいエンジニアにオーダーメイドしたところ昨年（2020年）初めに非線形の診断システムが出来上がりました。心の部分も分析するなどしたのでさらに診断能力が高くなり、詳細な部位診断やその後のセラピーの効果判定も

充実させることができました。そこで、この機器を基本としてがん治療にもあたっています。

気軽にセラピーが受けられるように『自癒游の塾』を開設

——メタトロンは他の医療現場にも取り入れられていますが、最上位機種はあまり見かけません。さらにそれをオーダーメイドされて改良されたものを使用されているとは驚きました。

藤沼 オーダーメイドした量子波動機器はとてもシンプルで使いやすい優れた機器ですので、患者さんには気軽に利用してもらいたいと考えていました。そこで、この度『自癒游（じゅう）の塾』を開設しました。メタトロンは定期的に受けることが望ましいのですが、今までは予約が取りにくかったり、料金のこともあったりしてなかなかスムーズな治療が受けられませんでした。そこで、医師の指導の下に患者さん自身が機器を操作して自身の測定セラピーを行える『自癒游の塾』を開設し、ニーズに応えることにしました。これにより、自由な時間に患者さんの思う通りに治療が受けられ、しかも安価になりました。



膵臓がんの手術を受けて間もないとは思えないくらい元気なAさんと奥様



予防に訪れているBさんと藤沼院長

百聞は一見にしかずですから、あちらの部屋で患者さんが実際にやっているところをご覧ください。

藤沼 今、『統合医療でがんに克つ』の取材に見えている方がいるのですが、Aさんよかったら協力していただけませんか。

Aさん はい。私はステージ2の膵臓がんで、先日手術を受け腫瘍を取り、その際に腹部を40センチ切りました。そして、術後に予防のための抗がん剤を勧められたのですが受けなくなかったので妻とも相談して藤沼先生を受診しました。メタトロンを活用した先生の治療を受けると生命力が上がってきた実感があります。実際に、執刀した先生も「こんなに早く回復しているのは珍しいです

ね」と話してくださいました。

——お元気そうですね、ついこの間そのような大手術を受けられたようには見受けられませんね。そして、ご夫婦で明るくセラピーを受けられていることを微笑ましくも思いました。

藤沼 まだ手術を受けて間もないのに、こんなに明るい患者さんは他では少ないのではないのでしょうか。その回復力に、私自身も驚いています。こちらの女性Bさんは、予防のために通われています。

Bさん 私は病気ではありませんが、「予防」については強い関心と興味を持っています。病気になって痛い思いや苦しい思いをしてさらに治療費まで払うより、予防のために費用を使うほうが得だと考えています。

こちらでは最新の波動療法が気軽に受けられるので、少し遠方からですがドライブが好きなので通っています。すぐに数値で結果が出るので、とてもわかりやすいセラピーだと思います。

当院の3大療法は免疫療法とアポトーシス誘導新生血管抑制です

——日本は皆保険制度で海外に比べて治療費負担が少なくて済みますが、公的保険がない国では治療費が高額で簡単に受診できないので、予防に力を入れている人が多いと聞きます。もっとも費用の問題だけではなく、Bさんが言われたように痛い思いや苦しい思いをしないためにも、日本でももっと予防に目を向けて欲しいですね。お二人とも貴重なお話をありがとうございます。メタトロンの受診の様子がよく理解できました。

では、藤沼先生にさらに詳しくお話を伺いたいと思います。

藤沼 当院には遠方からも進行したがん患者さんがいらっしやいます。そのような患者さんは時間がないので、迅速にその人に合った一番効果的な治療法を選択しなければなりません。

当院では、日本の冬虫夏草と新型乳酸菌を使った免疫療法と梅エキスを使ったアポトーシス誘導、サメの脂質を使った新生血管抑制の3大療法を基本としています。この治療により治った人は何人もいますが、残念ながら治らなかった人もいます。

では、どうしてある人は治り、ある人は治らなかったのでしょうか。そのことを考えた結果、波動に原因があることがわかりました。波動であるエネルギー波形が治療薬やサプリメントと同調すれば効き、同調しなければ効かないのです。

そこで、オーダーメイドした量子波動機器で治療の前に波動を調べ、何がその人に効くか調べます。そして、エネルギー波形が同調する治療を行います。これを「周波数医療」または「エネルギー治療」と呼んでいます。

——がんが難病である理由は、ある人に効いた治療が別の人には効かないという、個々のがんの特性の違いにあると思いますが、先生の周波数治療ではその患者さんに合う治療がわかるという画期的な治療法ですね。

藤沼 今までのメタトロンは治療には使っていましたが事前の相性診断には使えませんでした。今回オーダーメイドした機器ではそれが可能

● 藤沼医院

〒 329-0523 栃木県河内郡上三川町梁 347

電話：0285-53-7105

ホームページ：http://www.fujinumaiin.jp/

になっています。また、通常CTやMRIによる画像診断、血液検査によるマーカー数値の変化により治療効果を判定しますが、この装置により簡単かつ頻繁に診断することが可能にもなりました。また、がんにも特有の周波数がありますので、この量子波動機器でそれを反転変調させる周波数で互いに打ち消すことで、治療することもできます。問題のある場所の波動で調べて反転変調周波数による治療を行って、すぐに数値を計るとその場でどれだけ改善されているのがわかります。

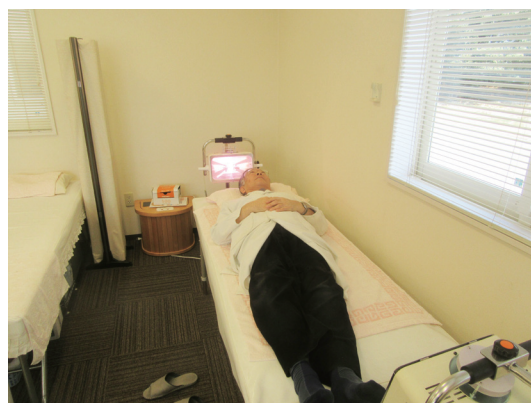
しかし、翌日になればすぐに戻ってしまいますので、何回も繰り返すことにより少しずつ改善していきま

す。ここで勘違いしないで欲しいことは、機器が魔法のように病気を治しているのではないということ。病気が悪い波動の状態を長期間続けたからであり、改善させるには、患者さんご自身が病に学び、気づき、自分の治癒力を最大限に発揮できる高い波動の状態を保ち続けることが重要だと考えています。

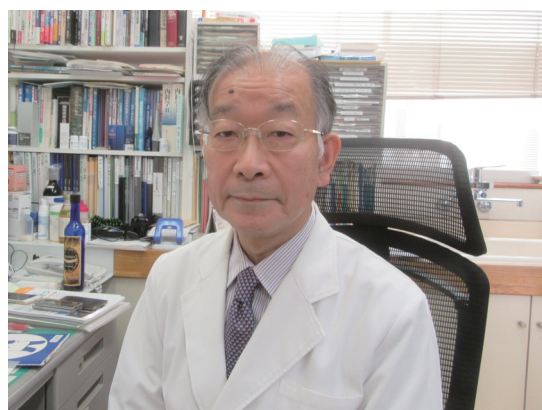
新しく「アーク光線療法」も取り入れました

——先ほど藤沼医院の3大療法をお聞きしましたが、先生は他にも多くの治療法を取り入れられていますね。

藤沼 がんは手ごわく個々の特性がありますから、治療の選択肢は多いほうがよいので、当院の3大療法の他にも高濃度ビタミンC点滴療法やバイオアロマ水、高圧酸素療法、温熱療法、水溶性珪素、フルボ酸によるデトックスなどの療法も組み合わせています。また、新しく「アーク光線療法」も取り入れました。この療法は、数々の光源の特徴と光の波長を用いて、複合的な治療を行っています。ノーベル生理学賞を受賞したデンマークのニールズフィンゼン博士が研究開発した原理を用いて、最新のコンピューター制御する複合光



新たに取り入れたアーク光線療法



「あなたの生き方を変えてがんをもとの姿に戻してあげてください」と話す藤沼院長

おそらくセラピーを受けられなかったら、メンタル面が原因で胃がんが再発していたと思われます。

すべての医師は医学的良心をもって治療にあたるべき

——本誌でもメンタルケアは重要視していますが、簡単に原因を突き止めることができずにメンタルケアできるとは理想的な治療ですね。今後も発展されますことを期待しています。最後にがん患者さんへメッセージをお願いします。

藤沼 患者さんと医師の立場は不均等で、『等価交換不変の法則』に照らすと医師の立場は優位ですので、すべての医師は医学的良心をもって治療にあたるべきだと考えています。私が日々意識していることは、人はスピリット（霊性）とマインド（心）、ボディー（体）の三位が重なり合っている存在だということです。なぜ病気になるのかといえば、それは霊性、心、体のどこかに原因があり、この原因を取り除くことが治療では必ず必要になってきます。